

26T-am06S

沈香の遺伝子鑑別法についての検討

○田中 誠司¹, 伊藤 美千穂¹ (¹京大院薬)

【目的】ジンチョウゲ科 *Aquilaria* 属及びその類縁種である *Gyrinops* 属植物に沈着した黒色の樹脂は沈香と呼ばれ、鎮静、解毒、健胃等を目的として用いられている。日本薬局方外生薬規格 2015 では、沈香の基原について数種類の *Aquilaria* 属のみ用いることを定めているが、組織形態や成分化学的な観点に基づいて沈香の基原種を識別することは困難である。しかし沈香基原植物はワシントン条約 (CITES) 附属書Ⅱ類に分類される規制品であり、品質や安全性の担保と同時に国際条約遵守の観点からも基原種の鑑別が重要な課題であり続けてきた。一昨年発表した研究では *Aquilaria* 属植物の葉を用いて DNA バーコーディング領域を探索し、これを基に樹脂沈着部位でも解析用配列を得たが[1]、一部試料では解析に供するのに十分な量と質の PCR 増幅物を得ることができなかった。そこでより多くの試料に適用する為に、各種条件を再検討し鑑別法の改善を試みた。

【方法】*Aquilaria* 属植物及び *Gyrinops* 属植物の樹脂沈着部位を試料として用いた。試料から DNA を抽出し、植物の種による違いを反映した遺伝子領域である葉緑体 DNA バーコーディング領域の *trnL-trnF*、*matK* 領域について Nested PCR 等の方法を用いて配列の解析を行い、種特異的な配列の特定を試みた。

【結果及び考察】本方法を用いることで、従来の方法では配列解析が不可能であった試料から種特異的な配列を得ることができた。沈香の特に古い試料の基原種を明らかにすることはワシントン条約遵守、また限られた資源の利活用という意味においても重要であり、今後の品質評価研究や栽培研究にも応用されるものであると考えている。本方法はその手法の一つとなり得るものである。

[1] 田中誠司, 伊藤美千穂(2016) 日本薬学会第 136 年会 29R-am08S